

広西湧き水再生プロジェクト

活動を行う団体

広安西小学校（環境委員会）

（日本環境協会、熊本県環境センター、益城町教育委員会と連携して実施）

活動の概要

2013年夏、阿蘇の自然について考える中で、阿蘇のきれいな水を通して、熊本の水環境について考えるところから活動がスタートした。

熊本の水環境を調べ、自分たちの学校区を見てみると、阿蘇からの湧き水が出ていることから、「広西水基プロジェクト」として、学校区の湧き水を未来へ残していこうと考えた。まずは、阿蘇や近隣市町村の美化活動や湧き水群調べを行ったり、湧き水周辺の清掃活動や水質調査を行ったりしている。



2016年4月、熊本地震の発生後、これまで調べていた湧き水も倒壊した家に埋もれたり、水が出なくなったり、水量が多くなったりと様々な影響が出た。「もう湧き水は未来へ残せない、あきらめよう」と考えていたが、一生懸命に出ている湧き水を見た時、「湧き水を絶対に守りたい」と、あきらめずに活動を続けていくことにした。

そこで、地震後の県内の湧き水の状態を調べるため、学校区の湧き水だけでなく、湧き水の源である阿蘇や熊本市の江津湖でも湧き水調査を行った。



学校内に湧き水の良さを伝えようと湧き水を使って掃除をしてみることを勧めたり、地域の人や保護者に地震後の湧き水の状態や湧き水の利用方法等を聞いたりした。

新たな復興に向けて工事をする場所が多くなったが、湧き水周辺の自然や生き物が少なくなっている状態にある。湧き水周辺の清掃活動や水質検査に加え、どうすれば生き物が湧き水周辺に増えてくるか、自然豊かになるかを考えている。

優良事例のポイント

湧き水と触れ合う活動を通して、きれいな水が地下を通過して道端やお家の庭に出てくることの素晴らしさに気づき、未来へ湧き水を残したい気持ちを子どもたちが強くしている。

学区内の地域の方から、昔の湧き水周辺の様子、昔や今の湧き水の利用の仕方を聞くなどの交流体験もしており、未来へ湧き水を残すためにできることを考えるきっかけとなっている。